

毛越寺講堂跡

かつてこの場所にあった講堂には、宇宙の至高の仏である、胎金両部大日如来の像が祀られていました。

講堂は、仏教の教えを説く場として利用されていました。さらに、僧が仏門に入るときや、より高い位に上がるときに行われる儀式などの、重要な儀式にも用いられていたといえます。これらの神聖な儀式に講堂が使用されていたことから、毛越寺は、東北地方の仏教寺院の中でも位の高い寺とみなされていたと考えられています。

講堂跡の庇柱筋は金堂円隆寺跡の北の柱筋と一直線に並ぶことから、講堂は金堂円隆寺と一体的に造営されたものと考えられます。

1573 年に、この講堂は火災で破壊されましたが、元の礎石はこの場所に残っています。